

京山作
豊國画
表好
青梓

録
琴
美
人
二
西
妻
上
下



~ 13
3753
3





大正十三年

水之清は淡路の岸の

様本を朝比奈の

影をうけしき 京山

嘉永元年戊申

春稿本秋上梓

酒の香は板橋

門へ13
3753
巻 3

山 京 山 桑 重
歌 川 山 作
園 通 豊

おの井が貞節 きんせいのぶ
琴声美人録 きんせいのびと 三編
上冊

永 年 二 角 好
永 年 二 角 好
永 年 二 角 好





美人三

月夜の静けさ
 水鏡に映る姿
 松の影が伸びる
 月が空を照らす
 女は静かに立ち
 水辺を渡る
 衣の裾が揺れる
 風が髪を揺らす
 静かな夜に
 一人の女が
 歩む姿は
 絵画の如く
 美しく
 哀しく
 思われる

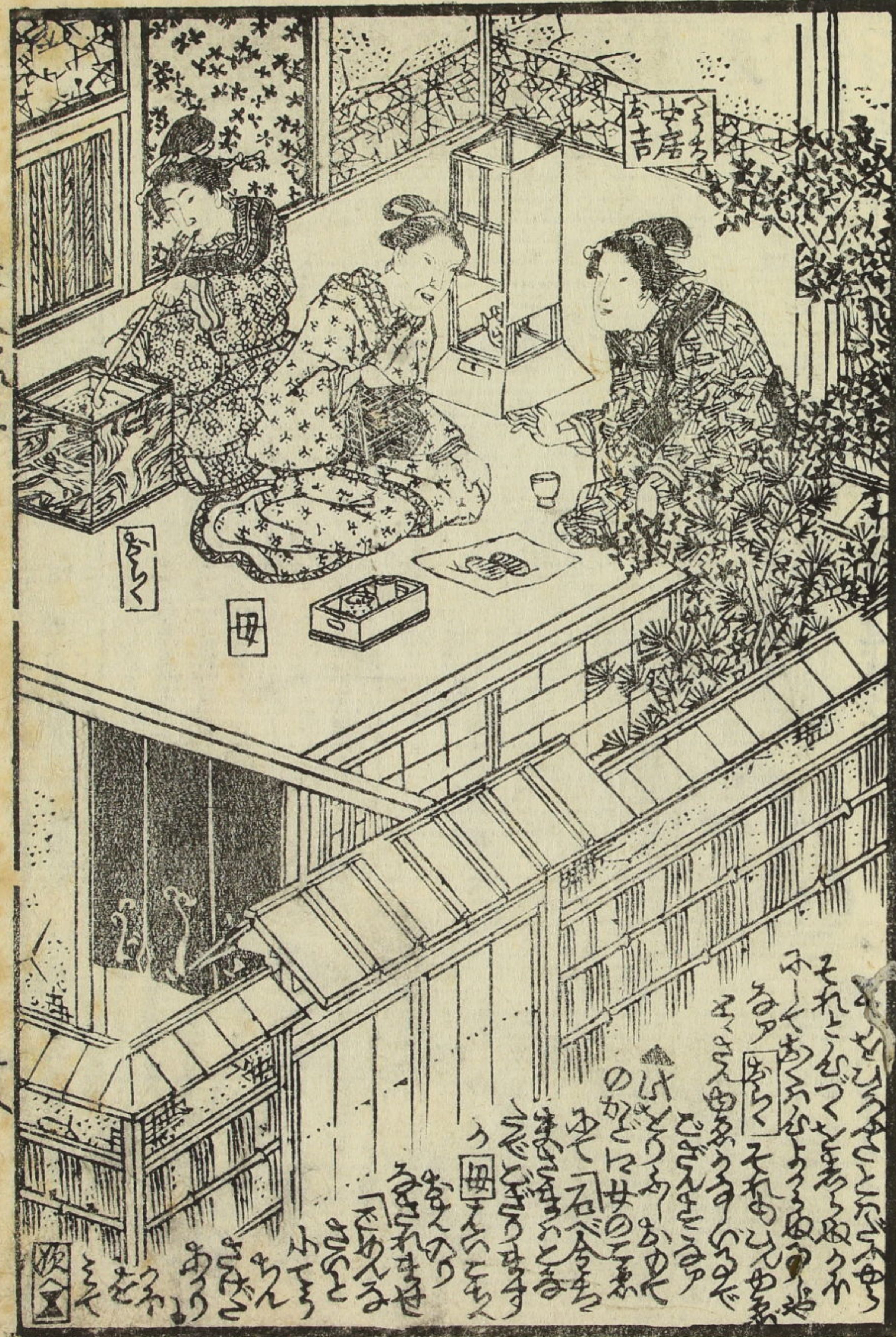
美人三
 人録三編



水鏡に映る姿
 松の影が伸びる
 月が空を照らす
 女は静かに立ち
 水辺を渡る
 衣の裾が揺れる
 風が髪を揺らす
 静かな夜に
 一人の女が
 歩む姿は
 絵画の如く
 美しく
 哀しく
 思われる

美人三
 人録三編
 水鏡に映る姿
 松の影が伸びる
 月が空を照らす
 女は静かに立ち
 水辺を渡る
 衣の裾が揺れる
 風が髪を揺らす
 静かな夜に
 一人の女が
 歩む姿は
 絵画の如く
 美しく
 哀しく
 思われる





お吉

お吉

お吉

お吉

お吉

お吉

お吉

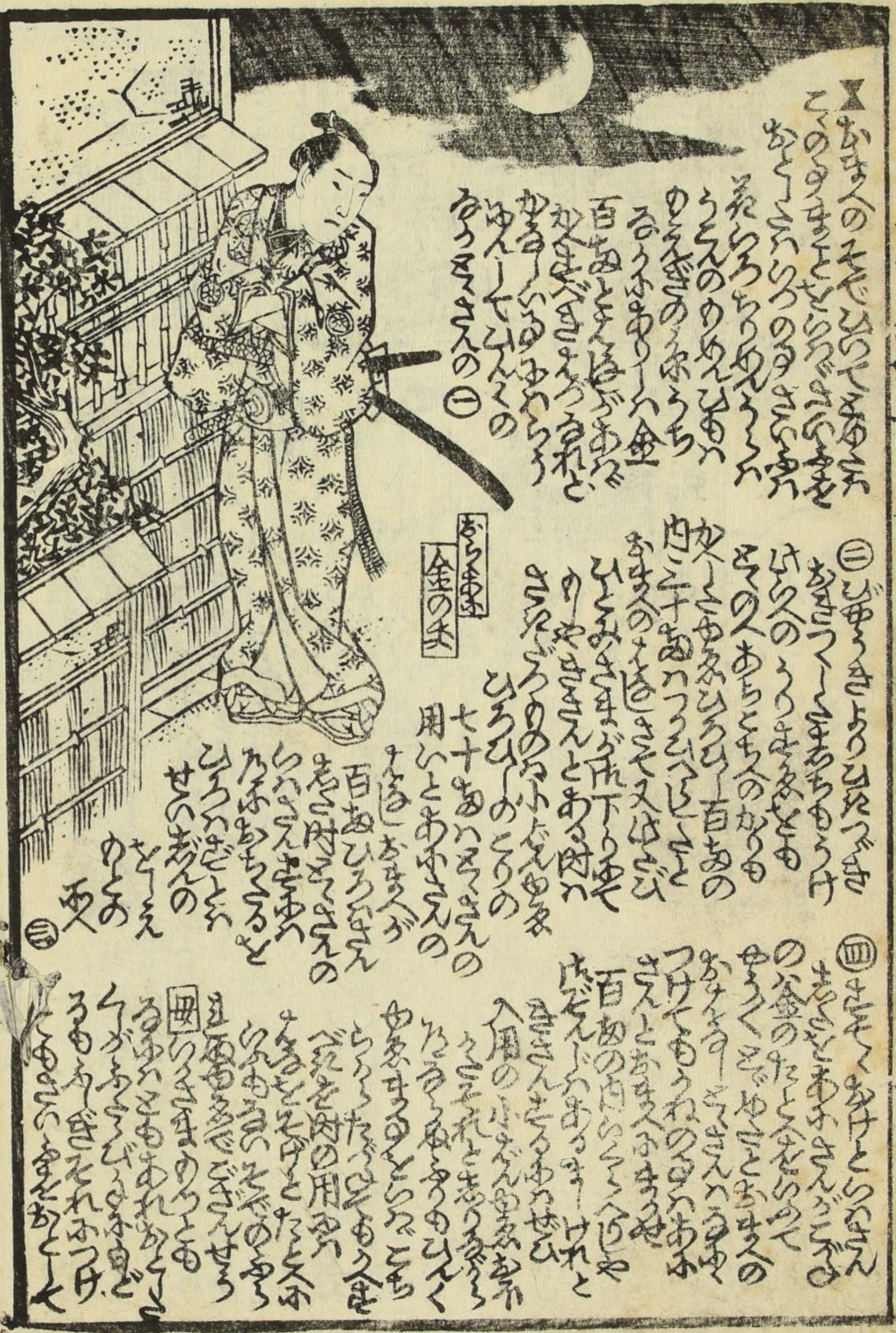
お吉

お吉

お吉

お吉

お吉



金の夫

金の夫

金の夫

金の夫

金の夫

金の夫

金の夫

お吉のそのまゝのていど
このまゝとていど
お吉のそのまゝのていど
このまゝとていど
お吉のそのまゝのていど
このまゝとていど
お吉のそのまゝのていど
このまゝとていど
お吉のそのまゝのていど
このまゝとていど

お吉のそのまゝのていど
このまゝとていど
お吉のそのまゝのていど
このまゝとていど
お吉のそのまゝのていど
このまゝとていど
お吉のそのまゝのていど
このまゝとていど
お吉のそのまゝのていど
このまゝとていど

お吉のそのまゝのていど
このまゝとていど
お吉のそのまゝのていど
このまゝとていど
お吉のそのまゝのていど
このまゝとていど
お吉のそのまゝのていど
このまゝとていど
お吉のそのまゝのていど
このまゝとていど

お吉

お吉

△ひつれ
たれがとて
かすもの
あつらふ
さすのま
さすのま
百あつら
あつら
つれてあ
だ死すま
まぢうと
あぢうの
母あつら
たのひ
つれこれ
あつら
らつら
さすの
さすの
さすの
あつら
とつた
あつら
あつら
あつら



△ひつれ
たれがとて
かすもの
あつらふ
さすのま
さすのま
百あつら
あつら
つれてあ
だ死すま
まぢうと
あぢうの
母あつら
たのひ
つれこれ
あつら
らつら
さすの
さすの
さすの
あつら
とつた
あつら
あつら
あつら

△ひつれ
たれがとて
かすもの
あつらふ
さすのま
さすのま
百あつら
あつら
つれてあ
だ死すま
まぢうと
あぢうの
母あつら
たのひ
つれこれ
あつら
らつら
さすの
さすの
さすの
あつら
とつた
あつら
あつら
あつら



△ひつれ
たれがとて
かすもの
あつらふ
さすのま
さすのま
百あつら
あつら
つれてあ
だ死すま
まぢうと
あぢうの
母あつら
たのひ
つれこれ
あつら
らつら
さすの
さすの
さすの
あつら
とつた
あつら
あつら
あつら

嘉永二年巳酉新板目錄

繪圖見西行 九編 山東庵京山作

一陽齋豐國画

お組琴聲美人録 三編 山東庵京山作

一陽齋豐國画

教訓乳母草紙 六編 山東庵京山作

一陽齋豐國画

鎮火五龍圖 取次 井

東都芝神明前三島町角

佐野屋喜兵衛板

墨川亭雪麿作 釣釜活梅 四冊 青もや 釣釜活梅 四冊

溪齋英泉画

七の組入子枕 三冊 立亭仙果作 神楽座三編

一陽齋豐國画

並太平記 樂亭西馬作 念力弓勢 四冊

三編 哥川貞秀画

巻八終三



△茶のついでに... 石へ金大夫

京山作 豊國画

録三編終

一本の... かの氏...

